

『小児期発症自己免疫性肝疾患患者の長期予後』 に対するご協力をお願い

研究の目的と意義	<p>この研究の目的は小児自己免疫性肝炎と診断された患者さんに関する特徴を明らかにすることです。</p> <p>この病気は今現在では原因が解明されておらずそれぞれに合わせた治療を行っています。</p> <p>その治療のデータを集めて解析する事で病気の状態を解明し患者さんの治療の予後の改善に繋がる事になる意義のある研究となります。</p>
研究の方法	この研究では、担当者が対象となる患者さんのカルテ（診療記録）を選び、検査の値、その後の経過についての記録を集計させていただきます。
対象者	2007年4月1日から2026年3月31日のあいだに小児自己免疫性肝疾患と診断された患者さんです。
利用する試料/情報	患者背景(性別、診断時年齢、症状、身長、体重、感染症)、内服薬の有無、アレルギー歴の有無、基礎疾患の有無、家族歴の有無、検査所見(AST(アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)、ALT(アラニンアミノトランスフェラーゼ)、GGT(ガンマグルタミルトランスペプチダーゼ)、ALP(アルカリフォスファターゼ)、T.bil(総ビリルビン)、D.bil(直接ビリルビン)、Alb(アルブミン)、WBC(白血球)、Hgb(ヘモグロビン)Plt(血小板)、PT(プロトロンビン活性)、M2BPGi(マック2結合タンパク)、総胆汁酸、オートタキシン、抗核抗体、抗平滑筋抗体、抗ミトコンドリア抗体、抗肝腎ミクロソーム-1抗体、免疫グロブリン、フェリチン、可溶性インターロイキン2受容体、Human Leukocyte Antigen、改訂版国際診断基準スコア、簡易版国際診断基準スコア、病理組織的活動性線維化重症度、胆道像所見、治療内容・投与量・投与期間(ウルソデオキシコール酸、ステロイド、アザチオプリン、シクロスポリン、人工肝補助治療、そのほか治療)、治療反応性として治療開始後の各血液検査所見、および病理組織学的活動性線維化重症度を調査します。
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた治療等の情報を診療録から個人情報削除して取得します。
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	当院単独研究で実施します。
試料/情報の院外提供	該当なし
結果公表	本研究で得られた結果は日本小児栄養消化器肝臓学会・日本小児肝臓研究会・日本肝臓学会などで発表予定です。
試料・情報の利用又は提供開始日	院長による研究実施許可日
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2028年3月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 小児肝臓消化器科/部長/梅津 守一郎
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 小児肝臓消化器科/部長/梅津 守一郎